

KOSHIN

JCE-1710 高圧洗浄機 取扱説明書（保証書付）

用途

農業機械の洗浄

用途以外の目的に使用しないでください

目次

はじめに

各部の名称と付属品	2
安全上のご注意	4

準備

組み立て	10
給油	13
エンジンの始動／停止	15
移動する	18

使用方法

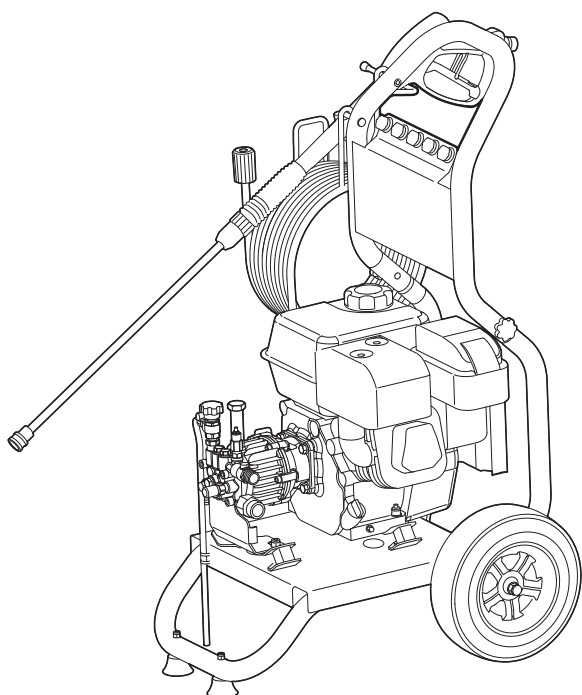
作業前点検	19
洗浄する	20

保守・点検

お手入れと保管	26
定期点検を行いましょう	28
「故障かな？」と思ったら（故障と処置）	29
整備	31

その他

仕様	38
パーツのご注文は	39
保証書	40



▶ 動画で見る

本誌内に掲載の二次元コードから
動画をご覧いただけます。

掲載例 ▶

動画で見る



- ・ 動画の内容は予告なく変更・削除されることがあります。
- ・ 通信料金はお客様のご負担となります。

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。
ございました。

- ・ ご使用の前に、この取扱説明書をよく読んで正しく安全にご使用ください。
- ・ お読みになった後も保管してください。
- ・ 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。

保証書に購入店などの記載がない場合は、レシートなどを貼り付けてください。

改良のため、予告なく仕様を変更する場合があります。

仕様変更などにより、本機のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますがご了承ください。

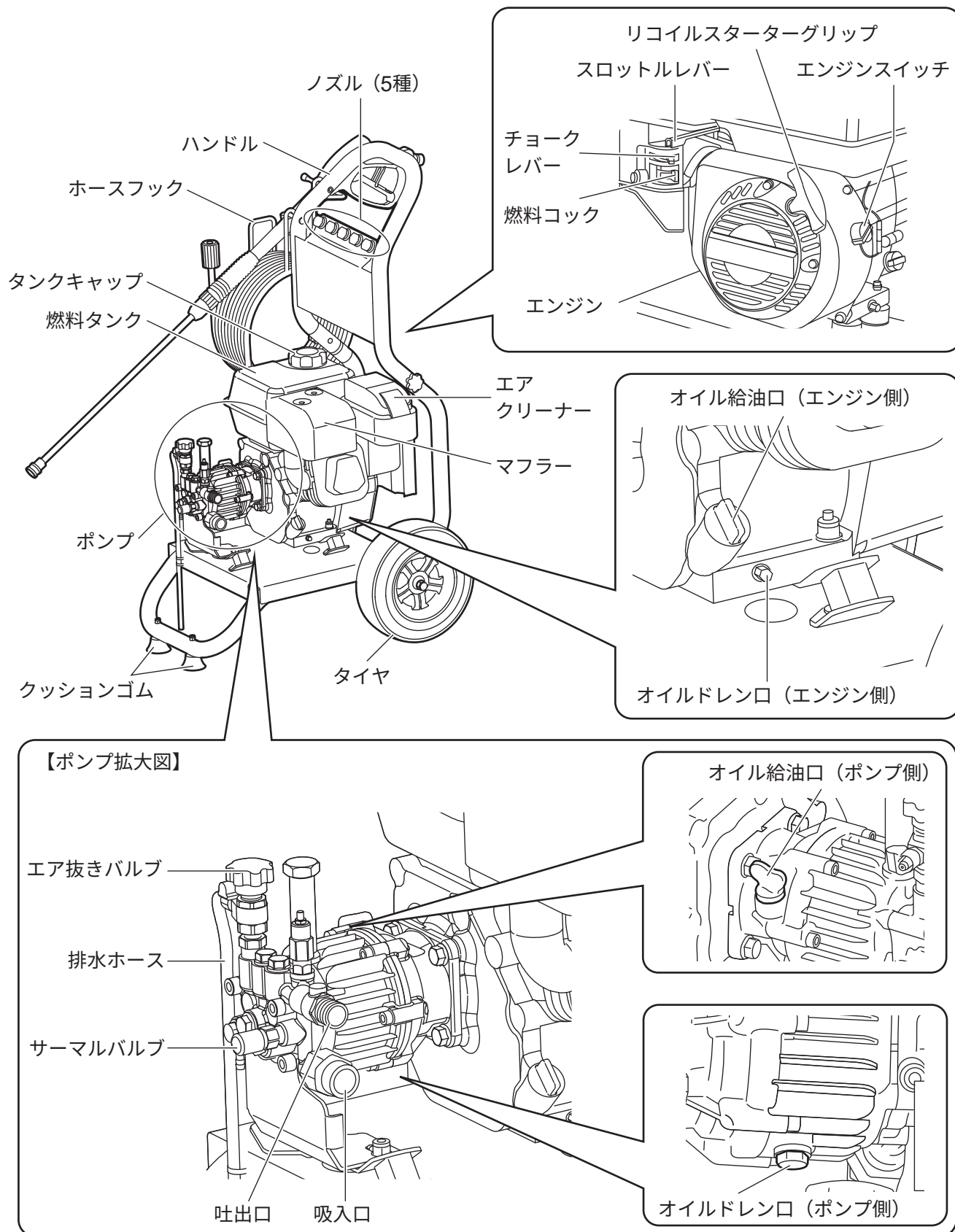
乱丁、落丁はお取り換えします。

株式 会社 **工進**

24-01 059228501

各部の名称と付属品

1. 各部の名称

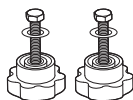


2. 付属品

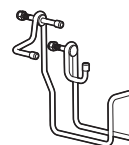
同梱されている付属品がすべてそろっているか確認してください。



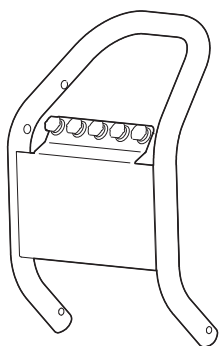
☐ ノズル (5個)



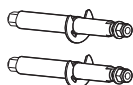
☐ ハンドル用ボルト (M6 2本) +
ハンドル用ワッシャー (M6 2枚)
+ハンドル用ノブ (2個)



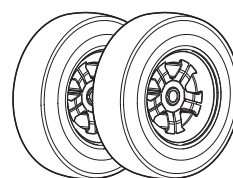
☐ ホースフック +
ナイロンナット (M8 2個)



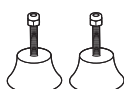
☐ ハンドル



☐ 車軸 (2本) + 車軸用ナット (2個)
+ ナイロンナット (M10 2個) +
バネ座金 (M10 2枚) +
平座金 (4枚)



☐ タイヤ (2個)



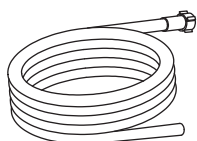
☐ クッションゴム (2個) +
ナイロンナット (M6 2個)



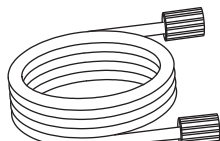
☐ ストレーナー



☐ ストレーナーカップリング



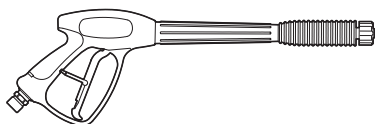
☐ 吸入ホース (3 m)



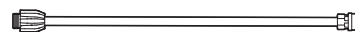
☐ 吐出ホース (8 m) 〈ネジ式〉



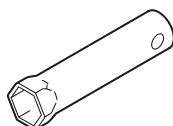
☐ ホースバンド



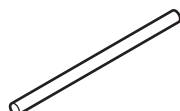
☐ ガン 〈ネジ式〉



☐ ノズルランス (ノズル交換タイプ)



☐ 点火プラグレンチ



☐ プラグレンチハンドル



☐ ノズルクリーナピン

☐ ガソリンエンジン取扱説明書
(K180 K210)

☐ 取扱説明書 (本誌)

安全上のご注意

使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用する方や他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。

■ 表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 危険	人が死亡、または重傷を負うおそれの高い内容です。
 警告	人が死亡、または重傷を負うおそれのある内容です。
 注意	人が傷害を負う、および本機やほかの財産に物的損害が発生するおそれのある内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

 してはいけない「禁止」の内容です。	 必ず守っていただく「実行」の内容です。
---	---

■ その他の表示

 ここがポイント！ 正しい操作のしかたや守っていただく要点などを示しています。

■ 本機に関すること

 危険  次のときは本機を使用しない ・ 疲れているとき、身体が不調のとき ・ 酒類や薬を飲んで正常な運転操作ができないとき ・ 夜間や悪天候などで視界が悪いとき ・ 妊娠しているとき  燃料タンクやホースの破損、またはエンジンや燃料タンクからの燃料漏れがないか確認する 破損や燃料漏れがある場合は、直ちに本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へ修理をご依頼ください。	 室内および換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる所ではエンジンを始動しない（車内、テント内、トンネル内、倉庫、井戸、船倉、マンホールなど） エンジンの排気ガス中には有害な物質が含まれており、滞留した排気ガスによりガス中毒を起こすおそれがあります。  ストレーナーカップ、ストレーナーおよびガasketを必ず取り付ける 取り付けが悪いとガソリンが漏れ、火災や爆発の原因になるおそれがあります。  排気・吸気口は風通しの良い広い所に向ける  本機およびガソリン入り携行缶は直射日光の当たる所や高温となる所に放置しない ガソリンが気化して引火しやすい状態になる原因になります。
---	---

⚠ 危険

- ❗ ノズル先端をのぞき込んだり、手や足を
をかざしたりしない
高圧水を目に受けると失明、また手や足に
受けるとケガをするおそれがあります。
- ⊘ 爆発物や可燃性の液体、ガス、粉じん
のある所で使用しない
本機から発生する火花が発火や爆発の原因
になります。
- ❗ 作業時に適した服装で作業する
広範囲に水が飛び散るため、保護メガネ、
ゴム手袋や、ぬれても良い服など作業に適
した服装で作業してください。
(19ページ「2. 服装について」参照)
- ⊘ 人やペットに向けて使用しない
また人やペットに使用しない
- ❗ 平たん・水平で硬い所でエンジンを始
動する
傾斜地でエンジンを始動しないでください。
- ❗ 平たん・水平な硬い所に置く
燃料タンクキャップやキャブレターからガ
ソリンが漏れ、火災の原因になります。
- ⊘ 片手で作業をしない
- ⊘ 本機の周りに危険物、燃えやすい物を
置かない、近づけない
本機から出る排気ガスは熱くなるため、本
機や接続機器に損傷を起こすだけでなく、
思わぬ事故の原因になります。
- ⊘ 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたり
して使用しない
また、本機の上に物を載せて使用しない
事故やケガの原因になります。

⚠ 警告

- ❗ ホースなど、各部に折れや破損がない
ことを確認する
- ❗ ホースやノズルを取り付けた後、各部
を軽く引っ張り、確実に取り付けてい
ることを確認する
確実に取り付けていないと使用中に各部が
外れ、高圧水が噴出し、ケガの原因になり
ます。
- ❗ 各操作に十分に慣れ、正しく取り扱う
方法およびすばやく停止する方法を習
得する
- ❗ ホースを敷砂利など、凸凹した地面の
上にはわせるときは、ホースを傷付け
ないようにゆっくり動かす
- ❗ 作業場は明るく、また整理整頓する
作業場が暗く、また散らかっていると事故
の原因になります。
- ❗ 周囲に次のものがないことを確認して
から作業する

 - ・ 通電している電気設備・機械本体
 - ・ 火気のあるもの
 - ・ 鋭利なものなど飛ぶと危険なもの
- ❗ エンジンを始動させる前に必ず作業開
始前点検を行う
人身傷害や機械の破損を防止することがで
きます。
(19ページ「作業前点検」参照)
- ❗ 幼児・子どもが触れないよう、隔離措
置をして安全な所で使用する
- ❗ 燃料タンクキャップはしっかりと締め
付ける
- ❗ 本機に貼付された警告ラベルに従う
高温になる部品があるため、ヤケドのおそ
れがあります。
- ❗ 付属品を正しく確実に取り付けてから
作業を行う

警告

-  **本機の組み立てや付属品を取り付ける、または取り外すときは、必ずエンジン停止状態で行う**
エンジンを運転したまま行くと事故の原因になります。
-  **運搬時や保管時はホースを取り外す**
-  **エアクリーナーカバーなど部品類を外したまま使用しない**
事故や、エンジン故障の原因になります。
-  **運転中はガソリンやスプレーなど可燃性の物質を本機の近くで使用、放置しない**
引火し、火災の原因になります。
-  **車の足まわりなどの洗浄時は、グリス塗布部分に直接噴射しない**
-  **車を洗浄するときは洗浄対象からノズル先端までの距離を長めにする**
距離が近すぎるとタイヤ、タイヤバルブ、ボディなどを損傷したり、塗装がはがれたりする可能性があります。
-  **車両に積載したまま始動しない**
-  **取り扱い方法、作業のしかた、周りの状況など充分注意して慎重に作業する**
-  **洗浄は慎重に少しずつ試す**
本機の高圧洗浄は強力です。洗浄対象の目立たない所で洗浄を試し、洗浄対象の破損、塗装のはがれなど問題がないことを確認してから本格的に洗浄作業を始めてください。
損傷が生じるおそれのある場合は、長めに距離を取ってください。塗装のはがれや変色、破損、また破損によるケガのおそれがあります。
-  **作業を中断、終了する際はガンレバーを握り圧力を抜く**
高圧がかかったまま本機を放置すると不用意に高圧水が噴射するなど事故の原因になります。

-  **本機、付属品や工具類は、作業条件や実施する作業に合わせて使用する**
指定された用途以外に使用すると、事故の原因になります。
-  **本機が動かない、音や振動、においなど異常を感じたときは、直ちに使用を中止する**
思わぬケガや事故の原因となります。
エンジンを切り、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
-  **本機の能力に合った負荷（運転時間など）で作業する**
無理な作業は事故の原因になります。また、作業能力が悪くなります。
-  **定期点検を行う**
点検が不十分だと、事故の原因になります。
(28ページ「定期点検を行いましょう」参照)
-  **本機を使用しないときは、屋内に安全に保管する**
子どもの手の届かない所、雨がかからずぬれていない湿気の少ない所に保管してください。
(26ページ「2. 保管」参照)
-  **清掃に使用する灯油は引火しやすいため、タバコなどの火気を近づけない**
火災の原因となります。
-  **点検は平たん・水平な所で行う**
-  **点検や清掃時は必ずエンジンを停止する**
誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチは「OFF」にし点火プラグキャップを取り外してください。
-  **本誌記載内容以外の分解、修理、改造をしない**
異常動作してケガをする、また本機や接続機器が故障する原因になります。

⚠ 注意

- 
ガンレバーをひもや針金などで固定しない
 固定したまま噴射してしまうと、急なときに噴射を停止できず、ケガの原因になります。
- 
作業前にネジの緩みや欠落した部品、破損などがいないか確認し、異常がある場合は使用を中止する
 不完全な状態の本機を使用するとケガの原因になります。購入店もしくは本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
- 
純正品、指定部品を使用する
 事故やケガ、故障の原因となります。
- 
ノズルなど付属品を付け替えるときはガンレバーの安全装置をロック状態にする
- 
ぶついたり落としたりしたときは、本機などに破損や亀裂、変形がないことを点検する
 破損や亀裂、変形があると、ケガの原因になります。
- 
ストレーナーが破損している場合は新品と交換する
- 
運搬時、本機は平たんな所に置き、動かないようにする
- 
1分以上空運転しない
 故障の原因になります。
- 
40℃以上の温水、薬品は使用しない
 安全性を損なうおそれがあります。
- 
作業中に本機に物をかぶせない
- 
作業中は通気口を手や衣服でふさがない
 ヤケドする、または本機が故障する原因になります。

- 
ストレーナーは常にきれいな状態を保ち、必ず付属のストレーナーを取り付けて使用する
 砂や異物をポンプが吸い込むと、吐出量・圧力の低下や吸水しないなど、性能に悪影響を及ぼします。
- 
へこみや傷が目立つ塗装面には使用しない
 塗装が剥離する原因になります。
- 
壊れやすいものや傷付きやすいものには使用しない
 対象が損傷する原因になります。
- 
ホースを折らない、無理に引っ張らない
 給水ホースに異常（深い傷、折れ曲がりなど）がある場合は使用しない
- 
極端な高温や低温の環境下では使用しない
 充分な性能を得ることができません。
- 
作業中、作業直後は通気口やエンジン各部にさわらない
 高温になっているため、ヤケドの原因になります。
- 
段差を走行をする際は、本機が転倒しないよう充分に注意する
- 
定期的に休息を取る
 本機は機能上、使用時に振動が発生します。このため、長時間の連続使用は体に負担をかけることがあります。また、短時間であっても、ご使用中に指や手、腕、肩などに疲れを感じる場合があります。
- 
点火プラグ脱着時は、がい子（白い陶器部分）を損傷させないように注意する
 がい子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発する原因になります。
- 
無理な体勢で作業をしない
 足元を安定させ、バランスを保つようにしてください。
- 
エンジンの運転中はリコイルスターターグリップを引かない
 エンジンが破損する原因になります。

注意

-  リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻す
始動装置や回りの部品の破損または使用者に傷害を与えるおそれがあります。
-  作業中は移動しない
-  始動時や作業中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップをさわらない
感電の原因になります。
-  作業後はポンプ・ホース・ノズル内に水を残さない
凍結によるポンプ故障の原因になります。
-  屋外に長時間放置しない
-  長期保管前には燃料タンクやキャブレター内のガソリンを抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない所に保管する
抜き取ったガソリンは火災や爆発の原因になりますので、適切に処理してください。
-  エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機に箱やカバー・シートなどをかぶせない
火災の原因になります。
-  本機に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる所に置かない
故障およびエンジン部品の早期摩耗の原因になります。
-  本機を使用しないときはエンジンスイッチを「OFF」にして、燃料コックを「止」にする
-  点検・整備はエンジンが冷えてから行う
エンジン停止直後は、エンジンや排気口、エンジンオイルの温度が高くなっているため、ヤケドのおそれがあります。

■ 燃料に関すること

危険

-  ガソリンを取り扱うときは次のことに注意する
 - ・ エンジンを停止し、エンジンが充分冷えていることを確認する
 - ・ タバコ、炎や火花などの火気を近づけない
 - ・ 身体の静電気を放電する
火気や人体の静電気の放電による火花がガソリンに引火し、火災の原因になります。
-  運搬時はガソリンを抜く
ガソリンが漏れ、火災の原因になります。
-  ガソリンを抜くとき、電動式ポンプは使用しない
引火の原因になります。
-  作業中にガソリンの補給をしない
-  ガソリンやエンジンオイルをこぼさない
こぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
-  燃料タンクにガソリンが入っていて、エンジンが熱いとき、また気温が高いときは燃料タンクキャップを開けない
ガソリンが勢いよく噴出するおそれがあります。
-  エンジンが熱いときは給油しない
エンジン停止直後などエンジンが熱いときに給油すると引火のおそれがあります。
-  次のような所で給油する
 - ・ 焚き火などの火種がない
 - ・ 換気が良い
 - ・ 地面が平たん・水平で硬い

警告

-  購入後、初めて使用するときは、エンジンオイルを規定量補給する
工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。
-  給油は、換気の良い所で行う
-  給油時、燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないように注意する
-  本機を傾けてエンジンオイルを給油しない
傾けると規定量以上のエンジンオイルが入るため、エンジンから白煙が出る、排気口が詰まるなど、故障の原因になります。
-  古いガソリンは使用しない
携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因になります。
-  指定外のガソリンや、燃料添加剤を補給しない
エンジンなどに悪影響を与えます。
-  エンジンオイルを規定量以上に給油しない
入れすぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因になります。
-  ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用する
特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  定期的にエンジンオイル交換をする
エンジンが焼き付きなどの故障を起こすおそれがあります。
28ページ「定期点検を行いましょう」に基づいて交換してください。
-  エンジンオイルの交換は、エンジンが冷めるのを待つ
長時間使用後はエンジンオイルが熱いため、ヤケドの原因になります。

-  ガソリンを飲み込んだり、目に入ったり、燃料蒸気を吸い込んだりした場合は、直ちに医師の診断を受ける

注意

-  ガソリンが皮膚や衣類にこぼれた場合は石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える
-  汚れたエンジンオイルは使用しない
故障の原因になります。

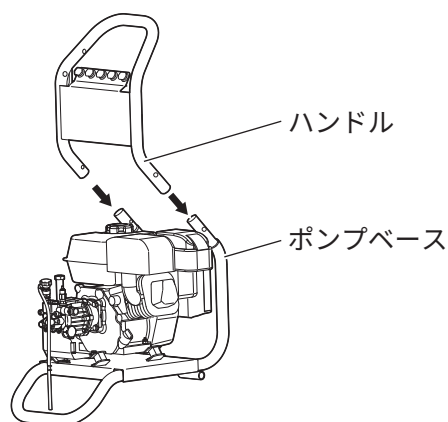
組み立て

1. ハンドル部の組み立て

1.1 ハンドル取り付け

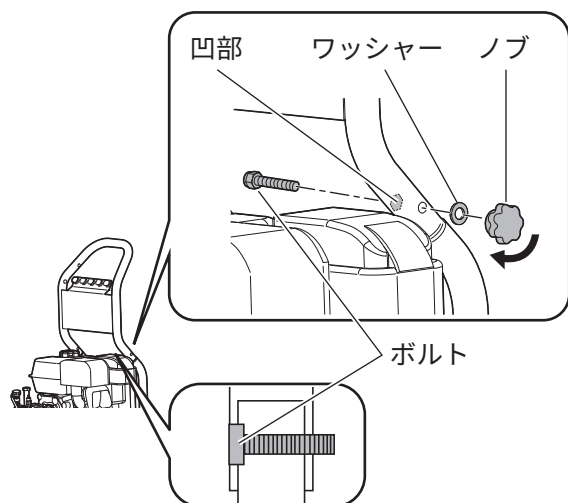
梱包時はハンドルとポンプ（エンジン含む）ベース部分が分割されています。
開梱後は次の手順を参考にハンドルをポンプベース部に取り付けてください。

1) ハンドルをポンプベース側のパイプに合わせてさし込む



2) 付属のボルトをさし込みナットで固定する。

ハンドルの凹部にボルトをしっかりとさし込んでください。



ここがポイント！

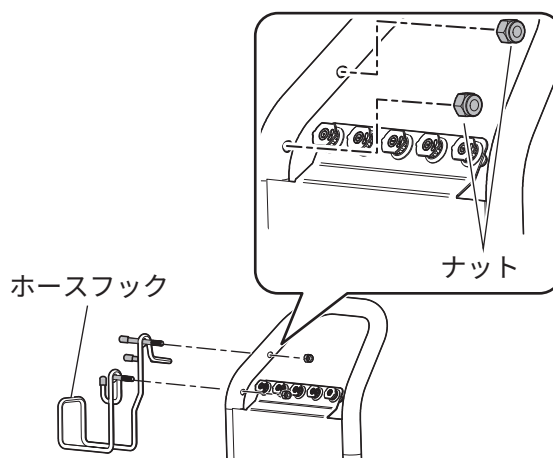
- 取り付け後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。取り付けが不完全ですと、ハンドルにガタが発生したり、異音、脱落の原因となります。

1.2 ホースフックの取り付け

用意するもの

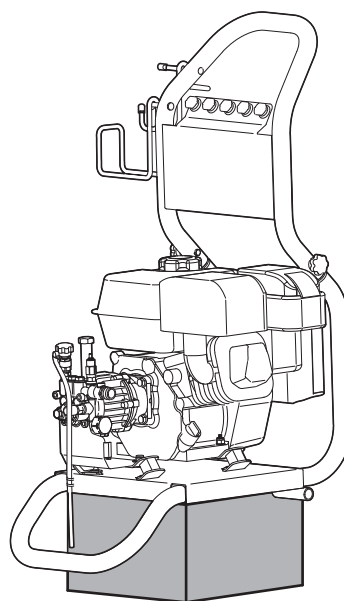
- スパナ（13 mm）

1) ハンドルの穴にホースフックを通し、付属のナットで固定する



2. タイヤ周辺の組み立て

タイヤ周辺の組み立てを行うために、本機を図のような状態にしてください。



組み立て

はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他

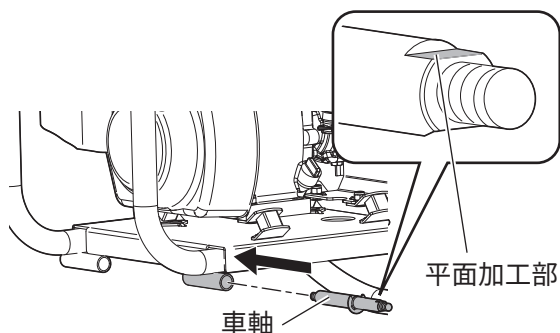
2.1 タイヤの取り付け

用意するもの

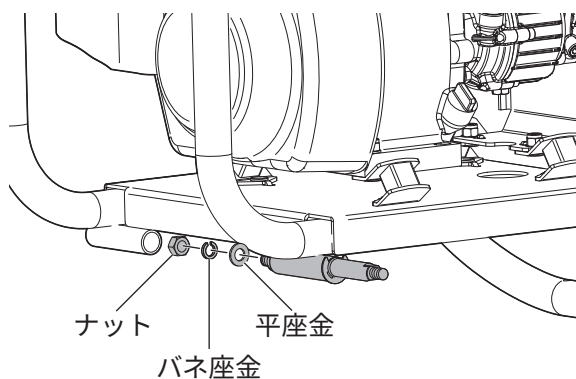
- スパナ (12 mm・17 mm)

1) 車軸の平面加工部の反対側をさし込む

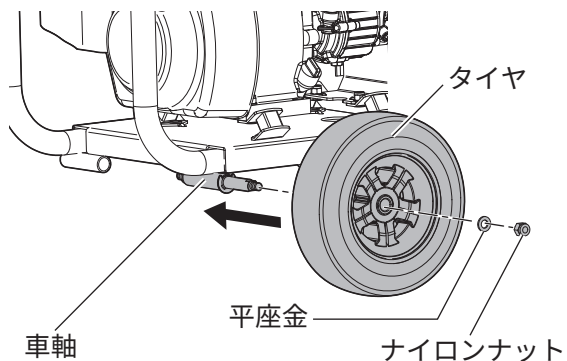
車軸の先端の平らな個所 (平面加工部) が外側になるようにさし込んでください。



2) 車軸の平面加工部と反対側に平座金、バネ座金を入れ、平面加工部をスパナなどで固定し、ナットでしっかり締め付ける



3) タイヤを車軸にさし込み平座金を入れ、ホイールナットで固定する

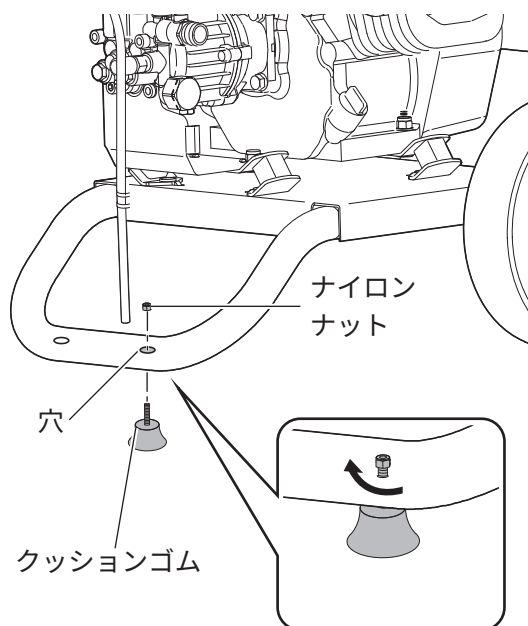


2.2 クッションゴムの取り付け

用意するもの

- スパナ (10 mm)

1) クッションゴムを本機の穴にさし込み、ナイロンナットで固定する



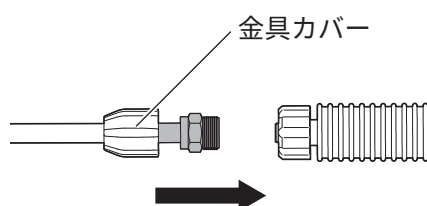
組み立て

3. ガンの組み立て

用意するもの

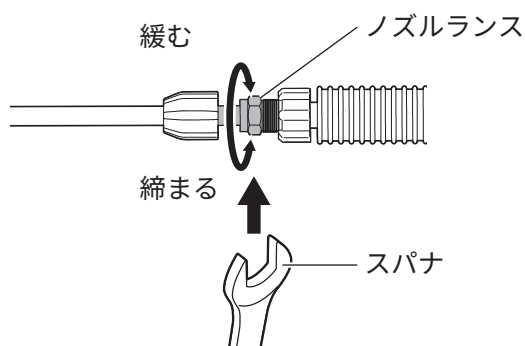
- スパナ (22 mm)

1) 金具カバーを外し、ノズルランスをガンにさし込む



2) ノズルランスをスパナで時計回りに回し、固定する

ノズルランスの固定後、金具カバーを戻してください。



ここがポイント！

- しっかりと締め付けたことを確認してください。締め付けが緩いと水漏れや接続部が外れケガをするおそれがあります。

4. ノズル

5種類のノズルから用途に合ったノズルを装着してください。



- 【あか】 直射 奥まった汚れに
- 【きいろ】 拡散15° クローラの泥に
- 【みどり】 拡散25° 洗車に
- 【しろ】 拡散40° 壁や床の汚れに
- 【はいいろ】 流し用 洗い流し用に

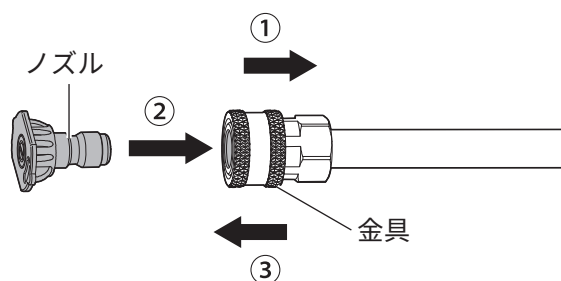


ここがポイント！

- ノズルの取り付け、交換のときは必ずエンジンを停止し①、ガンのガンレバーを握り②高圧ホース内の残圧を抜いてください。

4.1 ノズルの取り付け

1) ノズルランス先端の金具を手前に引き (①)、ノズルをさし込み (②) 金具を戻す (③)



2) 軽く引いて抜けないことを確認する

4.2 取り外し

ノズルランス先端の金具を手前に引くと取り外せます。



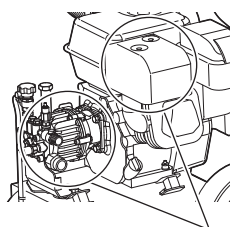
作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

本機には「ガソリン」と「エンジンオイル」が必要です。必ず給油してからご使用ください。詳しくはエンジンの取扱説明書をご覧ください。



ここがポイント！

- ガソリンおよびエンジンオイルの種類と量を守ってください。エンジン故障の原因になります。
- 給油時は高温部に触れないでください。ヤケドのおそれがあります。



高温部（マフラーとポンプ）

- 1) 本機を水平な場所に置く
- 2) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 3) 本機が不意に動かないよう固定する

1. ガソリン

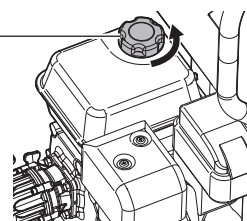
タンク内ガソリンの劣化防止のため、30日に1回は新しいガソリンに交換してください。

使用燃料：レギュラーガソリン

燃料タンク容量：3.6 L

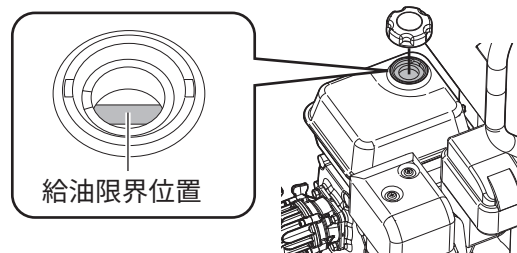
- 1) 燃料タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内と外部の気圧差を無くす

燃料タンク
キャップ



- 2) 燃料タンクキャップを外す

- 3) ガソリンをゆっくり、給油限界位置まで給油する



給油限界位置



ここがポイント！

- 燃料タンク内に水、雪、ゴミが入らないようにしてください
- 燃料を入れすぎると、移動時の傾きで燃料給油キャップからにじみ出るおそれがあります。

- 4) 燃料タンクキャップを取り付け、確実に締め付ける

2. エンジンオイル

ポンプ、エンジンの2か所にエンジンオイルの給油が必要です。

エンジンオイル量は正しく入れてください。少ない場合は焼き付き、多い場合はポンプ性能が劣化します。

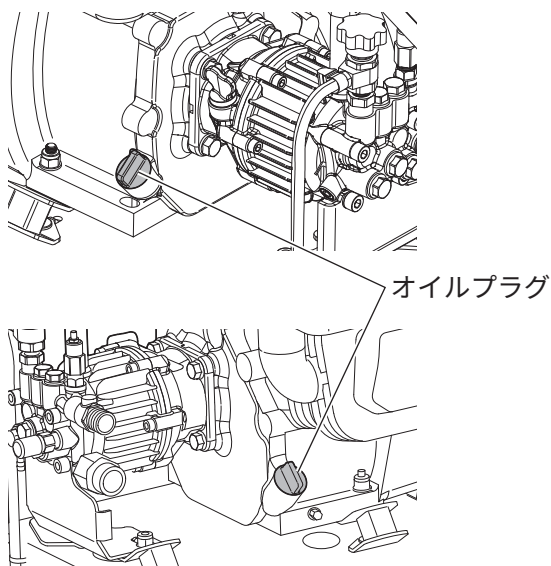
1) エンジンオイルを準備する

推奨オイル：4サイクルエンジンオイル
SE級以上
SAE10W-30

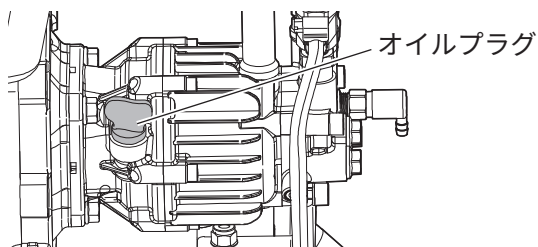
2) オイルプラグを取り外す

■ エンジン側

2か所のどちらからでも給油できます。



■ ポンプ側



3) エンジンオイルを給油する



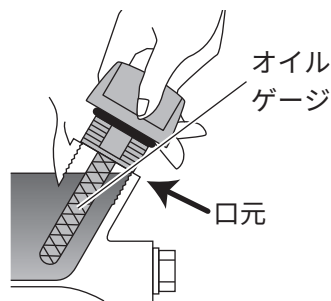
ここがポイント！

- じょうご、オイルジョッキを使用すると給油しやすくなります。
- エンジンオイルがあふれないよう少しずつ様子を見ながら給油してください。

■ エンジン側

エンジンオイル規定量：600 mL

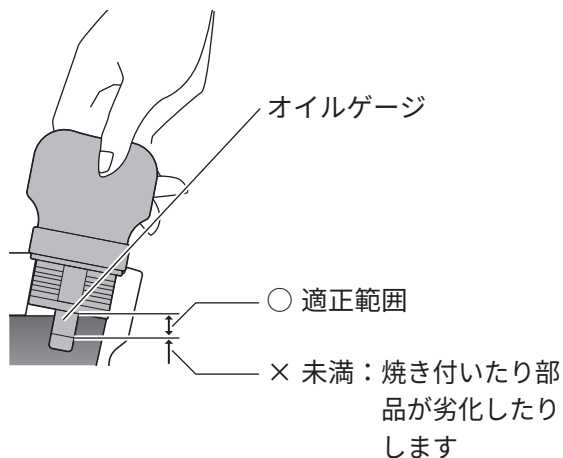
- エンジンオイルは注油口の口元まで補給してください。
- オイル量はオイルゲージを見て調整してください。また、オイルゲージをねじ込まずに点検してください。



■ ポンプ側

エンジンオイル規定量：180 mL

- エンジンオイルは規定量補給してください。
- オイル量はオイルゲージを見て調整してください。また、オイルゲージをねじ込んで点検してください。



エンジンの始動／停止

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。

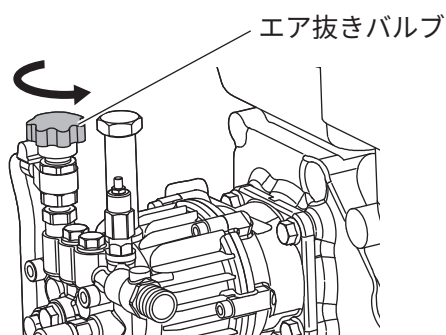
室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

1. エンジンの始動

1) エア抜きバルブを緩める

エア抜きバルブを緩めると、エンジンが始動しやすくなります。

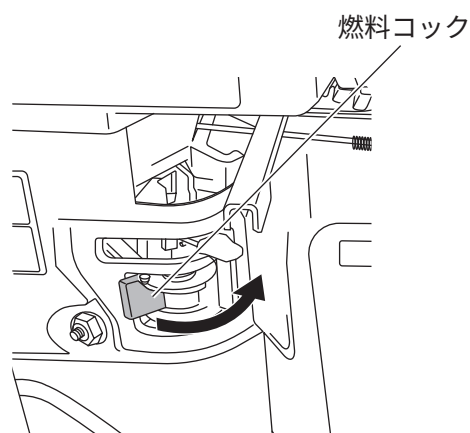
水が排水ホースより排出されますが、異常ではありません。



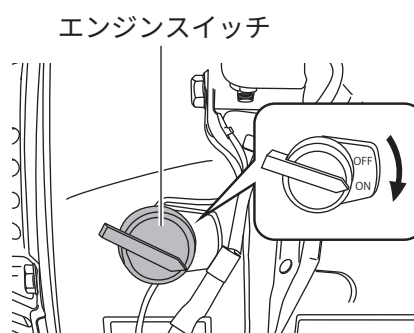
ここがポイント！

- エア抜きバルブを緩めないで規定圧力まで上昇しなかったり、圧力振動を起こしたりして故障の原因になります。
- 再始動時など給水ホース、ポンプ内の圧力が高いままだとエンジンが始動しにくいので、エア抜きバルブを緩めてください。エンジンが始動しやすくなります。

2) 燃料コックを開ける



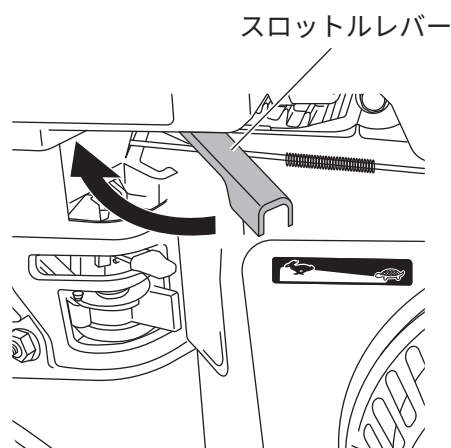
3) エンジンスイッチを「ON」にする



4) スロットルレバーを「高速（うさぎマーク）」側にする

スロットルレバーを「高速（うさぎマーク）」側へ操作する場合無理に強い力でレバーを操作しないでください。

無理な操作をするとレバーの固定部品が変形し回転数が異常となりハンチングや異音の原因になります。



はじめに

準備

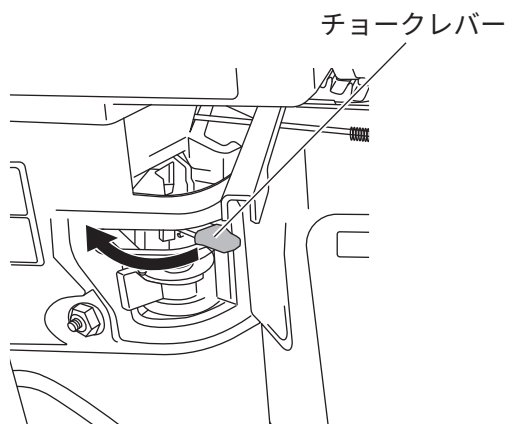
使用方法

保守・点検

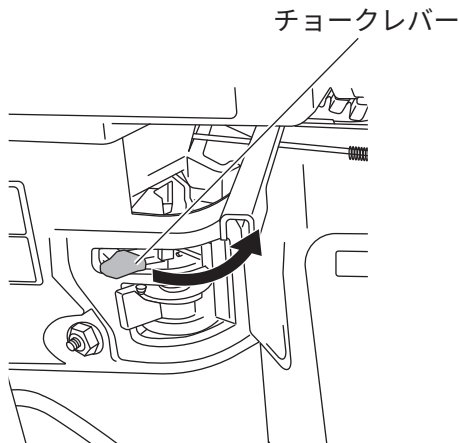
その他

エンジンの始動／停止

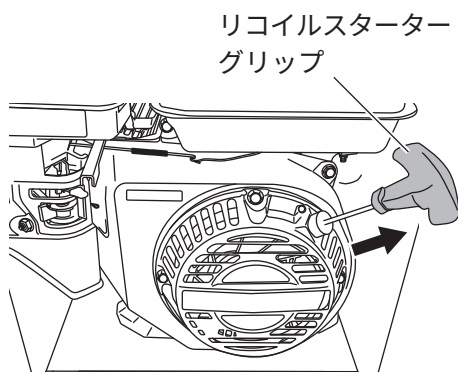
- 5) チョークレバーを「CHOKE (閉)」にする
(夏期は少し開いてください。)



- 8) 始動後、チョークレバーを「RUN (開)」にする

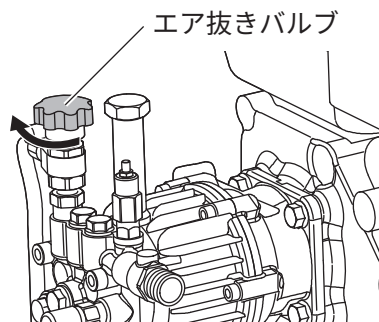


- 6) リコイルスターターグリップ (以下リコイル) を握り、本機をしっかり押さえ、軽く数回ひいてから、ロープを引っ張られたと感じたときに勢いよく引く



- 9) エア抜きバルブを締める

排水ホースから勢いよく水が出るのを確認してからエア抜きバルブを締めてください。



- 7) エンジンが始動したら、リコイルをゆっくり元の位置に戻す



ここがポイント！

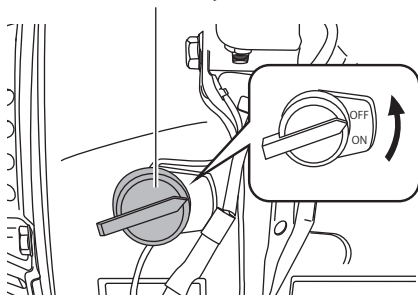
- 自吸の場合、エンジン始動後必ずすぐにガンレバーを握って水を吸い上げてください。ポンプに水がない状態で空転すると破損します。
- 3～4回リコイルを引いてエンジンがかからない場合、チョークレバーを「RUN (開)」にしてリコイルを再度引いてください。
- エンジンを再始動するときは、ガンレバーを1～2秒握り吐出ホース内の圧力を逃がしてから始動してください。
- エア抜きバルブはきちんと締めてください。規定圧力まで上がらなかったり、水が出なかったりします。

2. エンジンの停止

2.1 緊急停止

1) エンジンスイッチを「OFF」にする

エンジンスイッチ



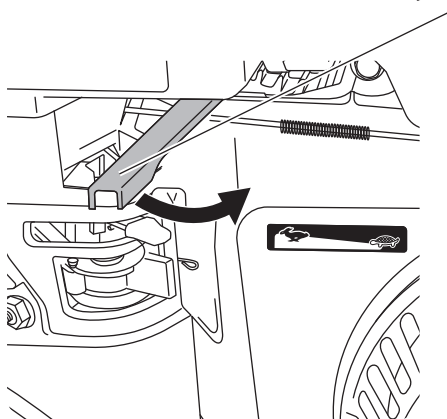
ここがポイント！

- 緊急停止する場合のみ行ってください。通常は次の「エンジンの通常停止」の手順で停止してください。

2.2 通常停止

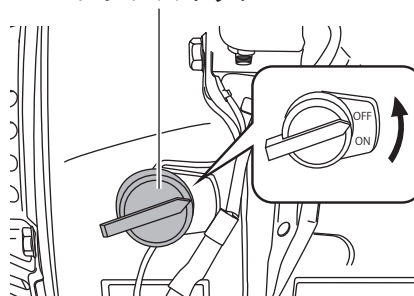
1) スロットルレバーを右に押して「低速（かめマーク）」にする

スロットルレバー



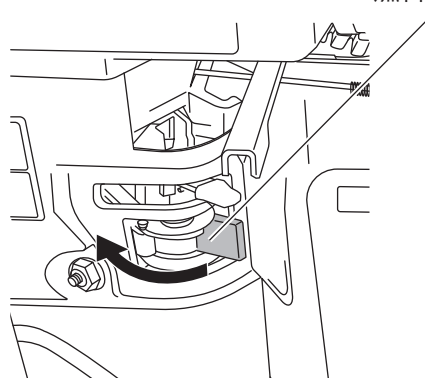
2) エンジンスイッチを「OFF」にする

エンジンスイッチ



3) 燃料コック（下側のコック）を「OFF」にする

燃料コック



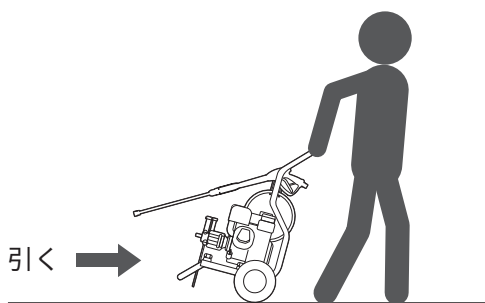
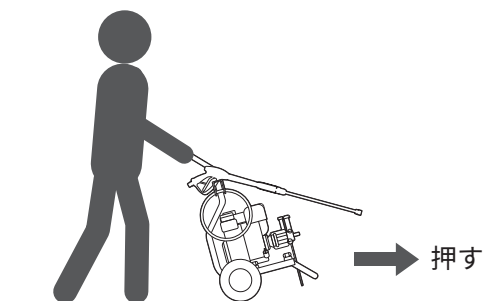
移動する

本機の移動や運搬時には、次のことを必ず守ってください。

1. キャリーでの移動

1) ハンドルを持ち移動する

押す・引く、両方で利用できます。



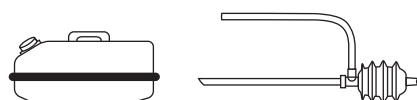
ここがポイント！

- 段差を走行するときは、本機が転倒しないよう充分注意してください。
- ガソリンが漏れるおそれがありますので、移動時に本機を傾けすぎないようにしてください。

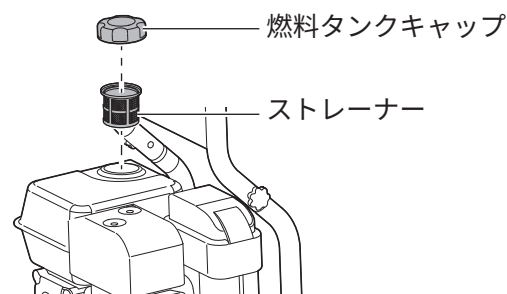
2. 車両での運搬

- 1) エンジン停止状態で、冷えていることを確認する
- 2) 燃料タンクに燃料が残っている場合、手順3)と4)を行う

- 3) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



- 4) 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す



- 5) 市販の手動式ガソリン用ポンプを使用しガソリンを携行缶へ移す
- 6) 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載する
- 7) ロープなどでしっかり固定する

作業前点検

作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

1. 作業前点検

本機を安全に、かつ快適にご使用いただくために点検を行ってください。

点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

■ 本機

部位	項目
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
ポンプ	オイル量、水漏れ、油漏れ、残水を排出などの点検
吸入ホース、吐出ホース	接続部の水漏れ、ホースが破損
ストレーナー・ディスクフィルター	網の破れ、異物の詰まり
吸入フィルター	網の破れ、異物の詰まり
ガン	残圧の残り、フィルターの異物の詰まり
ノズル	ノズル穴の詰まり

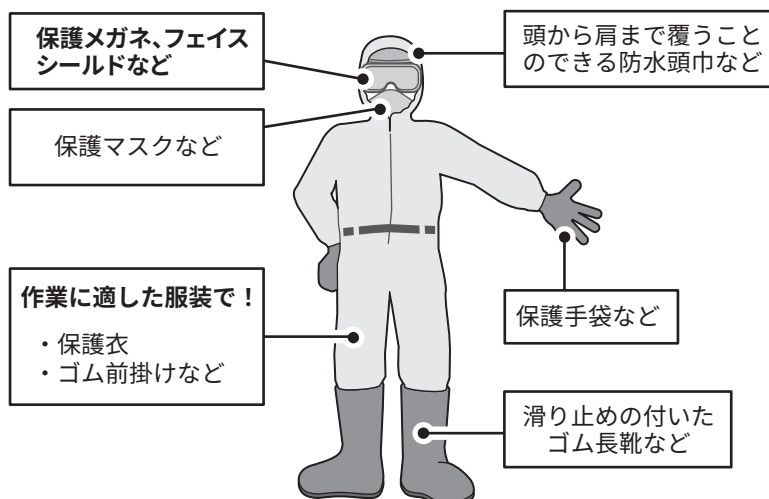
■ エンジン

部位	項目
エンジンオイル	オイル量
ガソリン	ガソリン量、漏れ
各部	ネジ、ナット類の緩み点検
燃料配管部	点検
エアクリーナー	点検

2. 服装について

図を参考に作業に適した服装で行ってください。

※保護マスクなどは付属していません。別途ご用意ください。



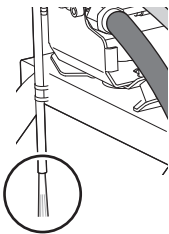
洗浄する

1. 吸水時の確認事項



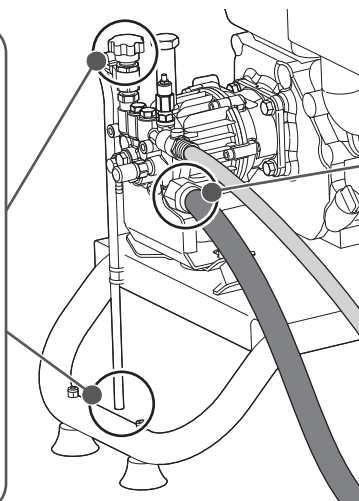
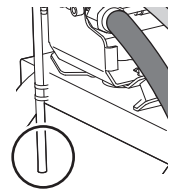
エンジン始動時エア抜きバルブを緩める

エンジン始動後はホースから水が勢いよく出ていることを確認してください。



エンジン始動後はエア抜きバルブを締める

エア抜きバルブを締め、水が漏れていないことを確認してください。



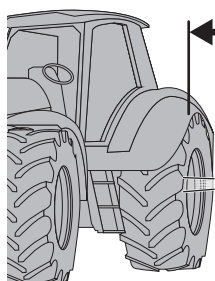
水を吸い上げていることを確認する

20秒以内に水を吸い上げない場合はエンジンを停止し、点検してください。

2. 洗浄時の確認事項



噴射し始める前に適切な距離（3～5 m）を取る
用途に合ったノズルを使用する



ガラス窓
車など



接続部に水漏れがないか確認する



ストレーナーが水に沈んでいることを確認する

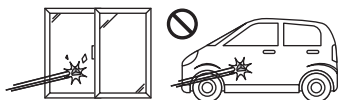


ホースが折れ曲がっていないことを確認する



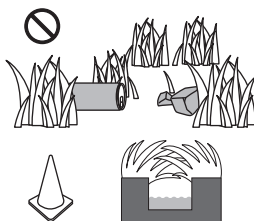
傷をつけない物が近くにないか確認する

飛散した障害物でガラスが割れたり、傷がつくおそれがありますので、板などで養生するか、移動させてください。



小石や空き缶など障害物、地面の凸凹が草に隠れていないか確認する

飛散すると危険ですので、取り除いてください。



取り扱い方法、作業のしかた、周りの状況など充分注意して慎重に作業する



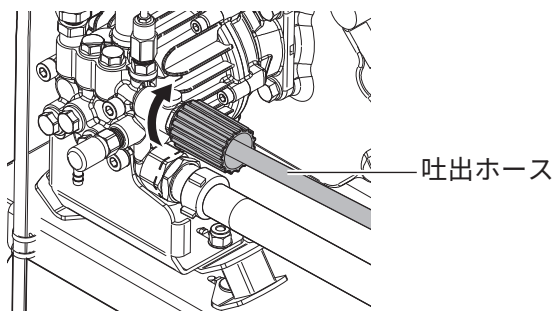


作業前に必ず4ページ「安全上のご注意」をお読みください。

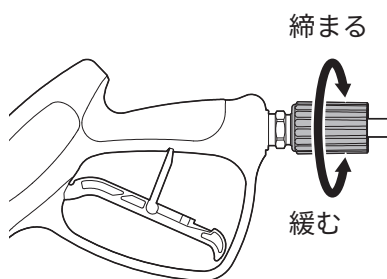
1. 吐出ホース

1.1 ガンの接続

1) 吐出ホースを吐出口に接続する



2) 吐出ホースをガンに接続する



ここがポイント！

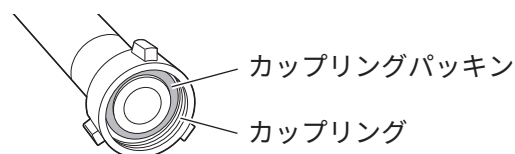
- 接続部分を引っ張り、ホースが外れないことを確認してください。接続が不十分ですと、事故の原因になります。

2. 吸入ホース

用意するもの

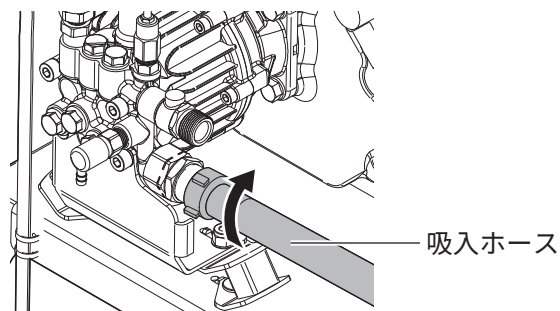
- プラスドライバー

1) 吸入ホースにカップリングパッキンが付いているか確認する



2) 吸入ホースを吸入口に接続する

吸入ホースの取付ネジは最後までしっかりと締め付けてください。
取り付けが不完全ですと、吸入不良の原因になります。

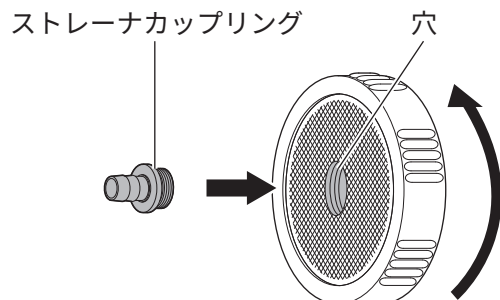


洗浄する

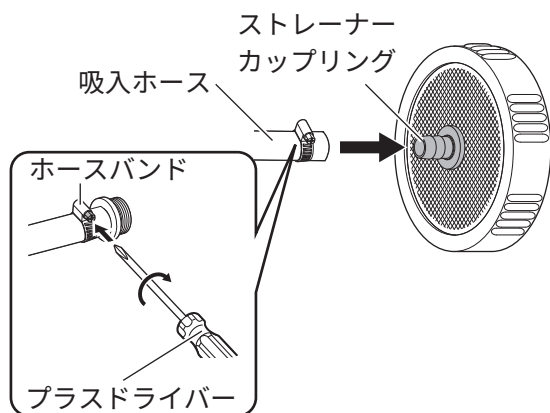
2.1 タンクや用水路※から取水する場合

※用水路から取水する場合は「JCEシリーズ専用 ディスクフィルター（別売）」(39ページ)を取り付けてください。接続方法については、23ページ「ディスクフィルターの取り付け」を参照してください。

1) ストレーナーにストレーナカップリングを取り付ける



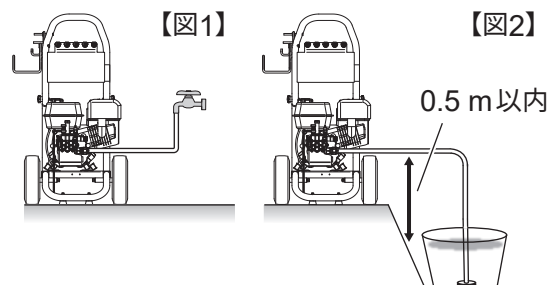
2) ストレーナカップリングに吸入ホースをさし込み、ホースバンドで固定する



ここがポイント！

自吸運転時の注意

- 最初にご使用されるときや長期間保管後に使用されるときに自吸性能が充分発揮できない場合があります。水を吸い上げられない場合は、水道から吸水【図1】し、一度運転を行った後、吸入ホースを自吸状態【図2】にしてご使用ください。



※自吸高さは0.5 m以内でご使用ください。
※必ず付属の吸入ホースをご使用ください。
故障の原因になります。

3) ストレーナーを水中へ沈める

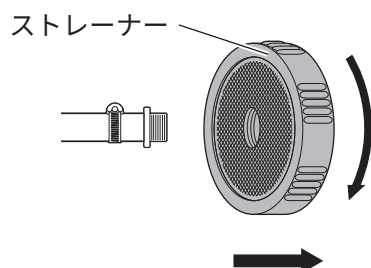
使用時にはストレーナーが完全に水没するように設置してください。

洗浄する

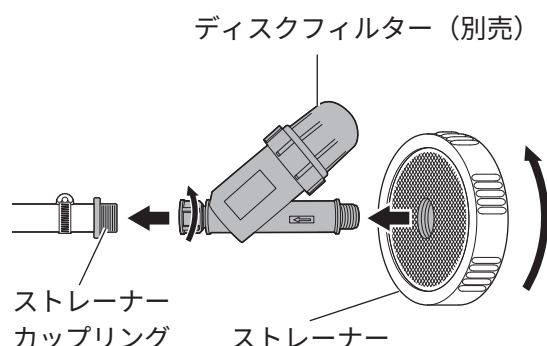
■ ディスクフィルターの取り付け

用水路より取水の場合は別売りのディスクフィルターを取り付けてください。

1) ストレーナーカップリングからストレーナーを取り外す



2) ストレーナーカップリングとストレーナーの間にディスクフィルターを取り付ける



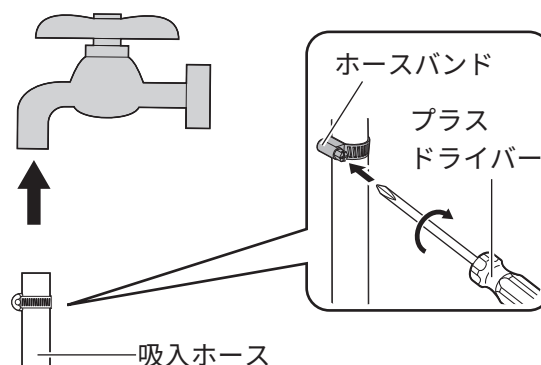
ここがポイント！

- ディスクフィルターを清掃せず、砂や異物を吸い込み続けると、ディスクフィルター内部のフィルター部に砂や異物が堆積し性能が低下します。こまめにフィルターの清掃をしてください。(32ページ「ディスクフィルターの清掃」参照)

2.2 水道に直結して取水する場合

水道設備のある場所では水道に直結して運転することが可能です。

1) 吸入ホースを水道蛇口にさし込み、ホースバンドでしっかりと固定する

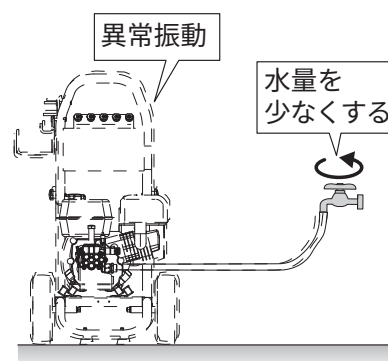


2) 水道蛇口を開く



ここがポイント！

- 水道水で使用される場合、水道からは毎分10リットルの給水が必要になります。水道圧力が異常に低かったり、給水量が不足する場合は使用できません。
- また、水圧が高い場合はポンプの異常振動や騒音の原因になります。水道水を使用して作業中に洗浄機が異常振動したり騒音が大ききときは水量が多いことが考えられます。水道の蛇口を少し絞りポンプが異常振動しない状態でご使用ください。



洗淨する

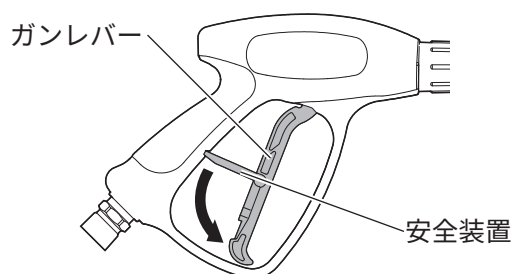
3. エンジンを始動する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)

4. 洗淨作業の開始

1) ガンレバーのロックを解除し、ガンレバーを引き水を噴射する

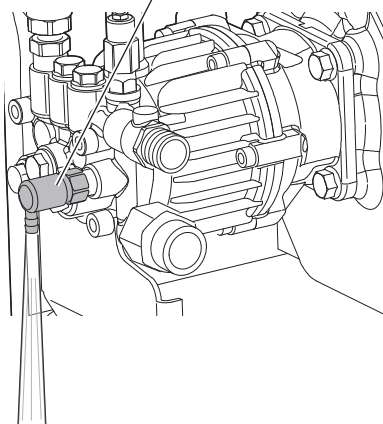
ガンには安全装置がついています。安全装置をロックの位置にすると、噴射できない状態になります。作業をしないときは、誤って噴射することがないように安全装置をロックの位置にしてください。



ここがポイント！

- ポンプ内の高温水がサーマルバルブから排出されることがありますが、異常ではありません。

サーマルバルブ



2) 作業が終わったらレバーをはなす

3) エンジンを停止する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)



ここがポイント！

- 洗淨作業をする際は、エンジンの回転数を上げてください。低速で使用すると負荷が大きくなり、エンジンが停止することがあります。
- 水道水を使用される場合は水道の蛇口を開放してからエンジンを始動してください。
- 吸入ホースから洗剤を吸入させることはできません。
- 吸入する水は清水を使用してください。川の水や砂、異物が混入している水は別売りのディスクフィルターを取り付けてください。性能低下や故障の原因となります。(23ページ参照)

4) 給水を停止する

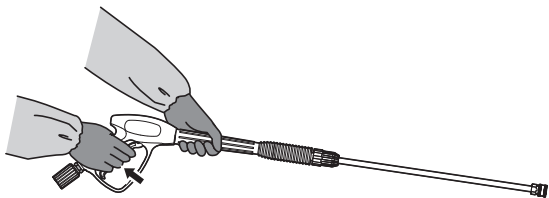
ストレーナーを水源から取り出す、または水道からの給水を止めてください。

洗浄する

5. 洗浄時のポイント

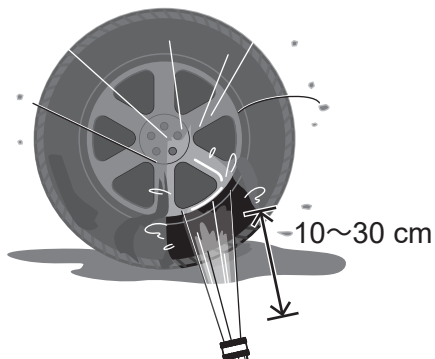
■ ガンの操作

- ガンは図のように持ち、操作してください。



■ 汚れを取る

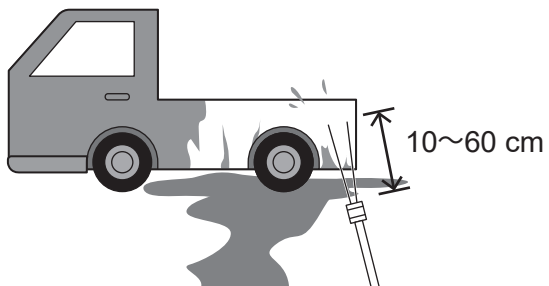
- 小石などの飛散にご注意ください。



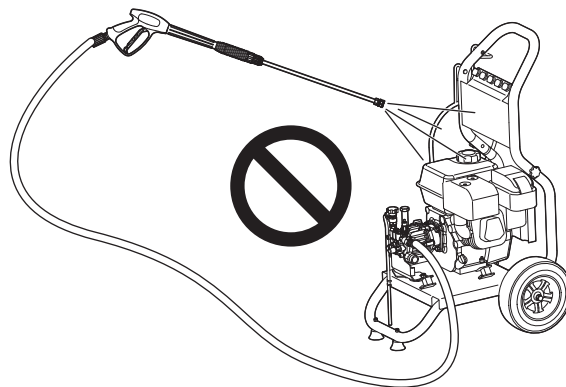
- 洗浄力が足りない場合は、対象との距離を短くする、または小角度ノズルに交換してください。
(12ページ「4. ノズル」参照)

■ 洗い流し

- 十分な距離をあけて作業をしてください。



■ 洗浄機本機を高圧洗浄しない



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

その他



1. お手入れ

「お手入れ」や「ホース、ポンプ内部の水抜き」を実施せずに故障した場合は、保証期間中でも保証の対象外となります。

1) ガンレバーを引き残圧を抜く

2) ノズルから水が出なくなったら、吸入ホース・吐出ホース・ガンをそれぞれ取り外す



ここがポイント！

- ・冬期に0℃以下になりますと、ポンプやホース類内部の残水が凍結することがあります。使用後は水抜きを確実に行ってください。
- ・ホースを取り外す際は、ガンレバーを1～2秒握り、ホース・ポンプ内部の圧力を抜いてください。圧力が残っていると、接続口が固くて外れないことがあります。外れた場合でも、水が吹き出すことがあります。

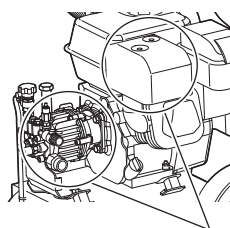
3) ストレーナーを清掃する

用水路などから吸水して作業された場合は必ず清水を一度通してポンプ内部を洗ってから保管してください。

4) 雨などがかからず、平たん・水平で硬い場所に置く

5) 本機が冷めるまで待つ

高温部（マフラーとポンプ）が冷めるまで、次の手順に進まないでください。



高温部（マフラーとポンプ）

6) 付着した汚れや水分を拭き取る

水分が残っているとサビや故障の原因になります。



ここがポイント！

- ・ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどは使用しないでください
変色、変形、ひび割れの原因になります。

7) 作業後の点検を行う

（28ページ表中「作業前後」参照）

通常の使用後は「保管」を、次回の使用が1か月以降になる場合は「長期保管」を行ってください。

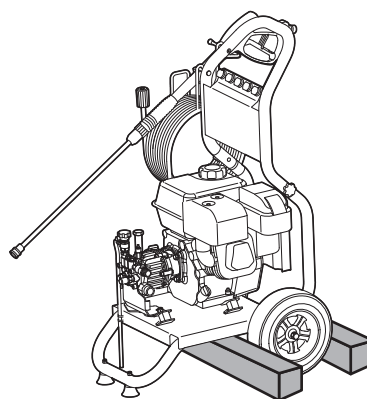
2. 保管

1) 「お手入れ」をすべて行う。

（26ページ「1. お手入れ」参照）

2) 本機が移動しないように固定する

本機にタイヤを固定する機能はありません。



3) 次のような場所を避けて保管する

- ・乳幼児、子どもの手の届く所や簡単に持ち出せる所
- ・熱源のそばや、真夏の閉め切った自動車内など高温になる所
- ・湿気の多い所
- ・湿度や温度の急変する所
- ・直射日光の当たる所
- ・揮発性物質の置いてある所

3. 長期保管

1) エンジンを始動する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)

2) ガンレバーを引き残圧を抜く

3) ノズルから水が出なくなったらエンジンを停止する



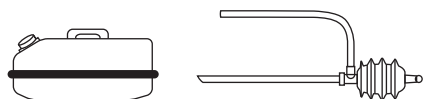
ここがポイント！

- ・ノズルから水が出なくなったらすぐにエンジンを停止してください。空運転は故障の原因になります。

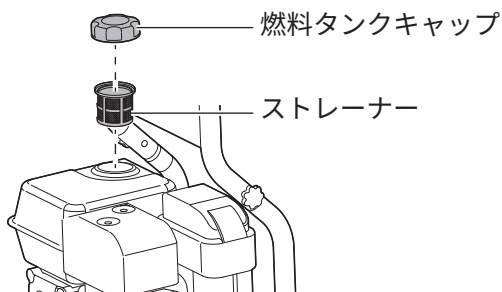
4) 「お手入れ」の手順2)～7)を行う

(26ページ「1. お手入れ」参照)

5) 消防法に適合した燃料携行缶と、手動式ガソリン用ポンプを用意する



6) 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す



7) 市販の手動式ガソリン用ポンプを使用しガソリンを携行缶へ移す

8) 点火プラグを取り外す

9) プラグ孔からエンジンオイルを3～5 mL 給油する

10) リコイルを2～3回ゆっくりと引く



ここがポイント！

- ・リコイルは勢いよく引かないでください。プラグ孔からエンジンオイルが勢いよく吹き出すおそれがあります。

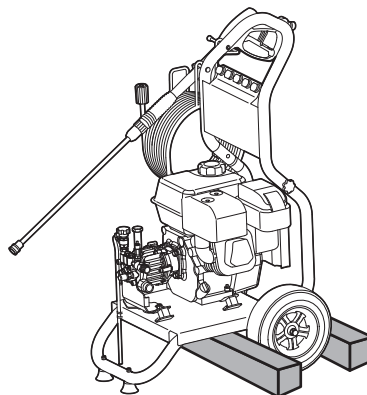
11) 点火プラグを取り付ける

12) リコイルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にする

13) こぼれた燃料、水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃する

14) 本機が移動しないように固定する

本機にタイヤを固定する機能はありません。



15) 本機にカバーを掛け、保管する

(26ページ「2. 保管」の手順3)「次のような場所を避けて保管する」参照)

定期点検を行いましょ

本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために、定期点検を行いましょ。
点検の結果、異常があった場合は本機を使用しないでください。

- 点検をするときはエンジンを停止してください。
- 運転時間または期間のどちらかが経過後、すみやかに実施してください。

■ 本機

対象部位	点検項目	点検時期 ^{※1}		
		作業中	作業前後	25時間 運転ごと
各部	ネジ、ナット類の緩み点検	●	●	
ポンプ	オイル量、水漏れ、油漏れ、残水を排出などの点検（34ページ）	●	●	●
吸入ホース、吐出ホース	接続部の水漏れ、ホースが破損（32ページ）	●	●	
ストレーナー・ディスク フィルター	網の破れ、異物の詰まり（26、32ページ）		●	
吸入口フィルター	網の破れ、異物の詰まり		●	
ガン	残圧の残り、フィルターの異物の詰まり（33ページ）		●	
ノズル	ノズル穴の詰まり（34ページ）		●	

■ エンジン

対象部位	点検項目	点検時期 ^{※1}				
		作業開始前	初回の1か月後 または 25時間運転後	3か月ごと または 50時間運転ごと	6か月ごと または 100時間運転ごと	1年経過 ごと
エンジンオイル	量	●				
	交換（34ページ）		●	●		
ガソリン	量（13ページ）	●				
各部	ネジ、ナット類の緩み点検	●				
燃料配管部	点検	●				
	交換					● ^{※2}
エアクリーナー	点検・清掃（37ページ）	●				
	交換				● ^{※3}	
点火プラグ	点検・清掃			●		
燃料タンクの ストレーナー	点検・清掃（35ページ）			●		
マフラー	点検・清掃			●		
	交換					● ^{※2}

※1 運転時間または期間のどちらか早く達した方で実施してください。点検間隔がそれ以前の間隔を超え次の間隔に達している場合は、それまでに含まれている項目は同時に実施してください。

※2 これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。
エンジンをいつまでも安全で快適に使用していただくために、部品交換を推奨いたします。

※3 エアクリーナーの交換は、エレメントのみ交換を行ってください。

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

点検以外の分解・修理は絶対にしないでください。
修理は本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご依頼ください。

■ エンジン

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
リコイルが引けない、または重い	エンジン内のサビ付き	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
	エンジンの焼き付き		
エンジンが始動しない	チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	16
	燃料タンクに燃料が入っていない	燃料を給油する	13
	古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順7）～9）を行った後、正しい燃料に入れ替える	13、27
	指定以外の燃料類を使用している		
	燃料タンクのストレーナーにゴミが詰まっている	燃料タンクのストレーナーを清掃する	35
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	37
	点火プラグのかぶりなど	点火プラグの清掃・点検・交換	35
	マフラーの排気口にカーボンが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
	キャブレターが詰まっている		
	チョークレバーの操作が適切でない	チョークレバーを適切に操作する	16
エンジンが数分動いた後止まる 始動するが、回転が上がらない、出力が充分でない	古い燃料（約1か月以上）使用によるエンジン不調	「長期保管」手順7）～9）を行った後、正しい燃料に入れ替える	13、27
	指定以外の燃料類を使用している		
	燃料タンクのストレーナーにゴミが詰まっている	燃料タンクのストレーナーを清掃する	35
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	37
	マフラーの排気口にカーボンが詰まっている	お客様では修理せずに、本誌裏表紙に記載の「工進修理受付窓口」へご相談ください。	—
	スロットルワイヤーの遊びが大きすぎる		
	指定以外の燃料類を使用している	「長期保管」手順7）～9）を行った後、正しい燃料に入れ替える	13、27
運転中、回転が次第に下がる	指定以外の燃料類を使用している	「長期保管」手順7）～9）を行った後、正しい燃料に入れ替える	13、27
	エアクリナーの汚れ	エアクリナーの清掃	37

「故障かな？」と思ったら（故障と処置）

■ 本機

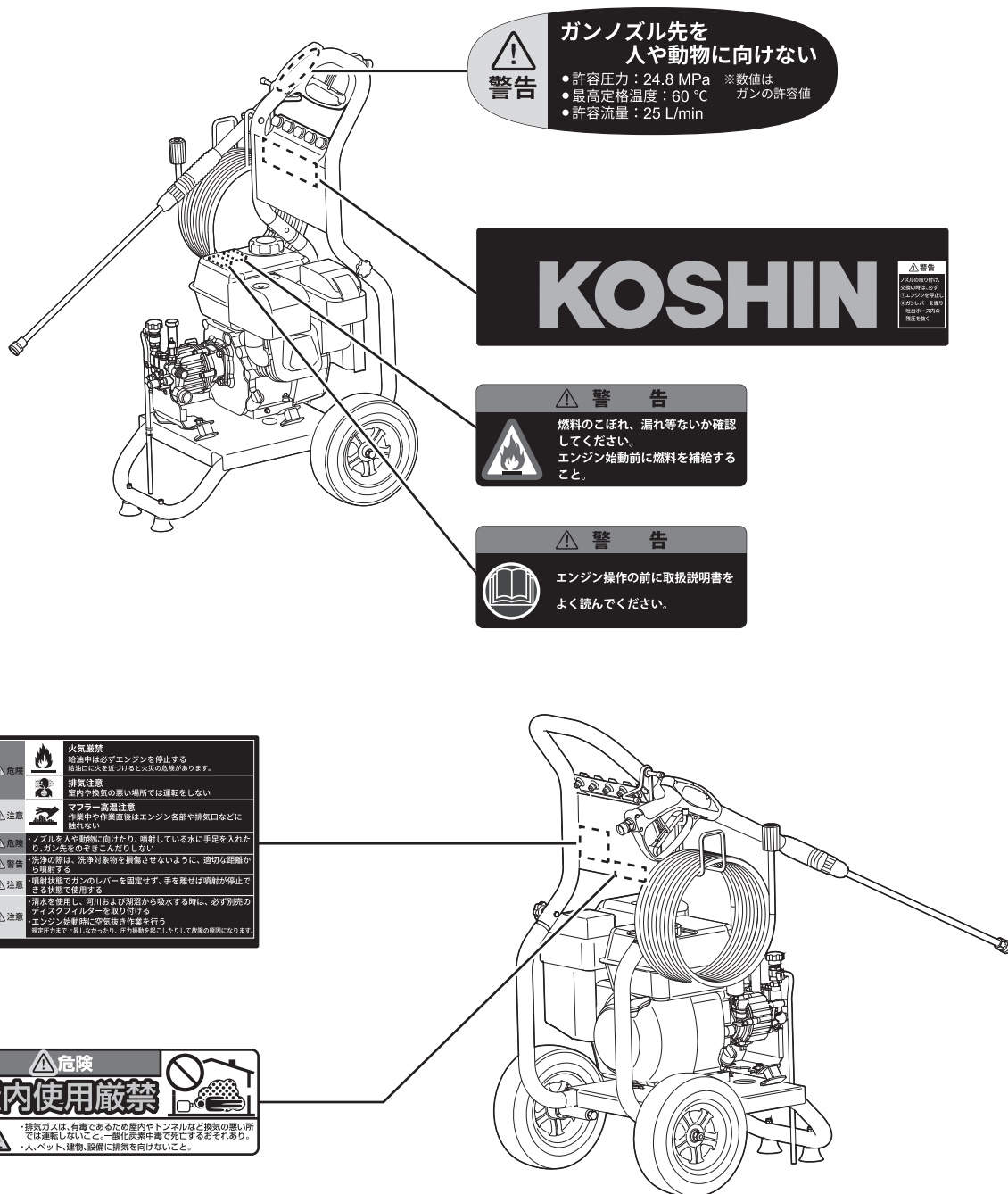
症状	考えられる原因	処置	参照ページ
水を吸わない 水を吸うのに時間がかかる 使用中に吸わなくなった	吸入弁が乾燥している	水道直結での吸水、または本機の近くからの吸水を行う	33
	吸入弁が固着している	水道直結での吸水を行う	34
	各吸入部の異常	ストレーナーの清掃	26
		ディスクフィルターの点検	32
		吸入ホース取付部の点検	32
	吸入ホースが破損しているか折れている	破損していたら交換する 折れていたらまっすぐに直す	—
	ストレーナーが水面まで浮き上がっている	浮き上がらないよう水底に固定する	—
	吸入側に高低差がある	自吸高さを0.5 m以下にする	22
圧力が上がらない 使用中に圧力が下がる 水の出が悪い	各吸入部の異常	ストレーナーの清掃	26
		ディスクフィルターの点検	32
		吸入ホース取付部の点検	32
	吸入ホースが破損しているか折れている	破損していたら交換する 折れていたらまっすぐに直す	—
	ストレーナーが水面まで浮き上がっている	浮き上がらないよう水底に固定する	—
	ノズル穴が詰まっている	ノズルクリーナーピンで清掃	34
ホースのワンタッチカプラーが外れない	吐出ホース内に残圧がある	ガンレバーを握り圧力を抜く	—

パッキン類、ピストン部品、オイルシール、バルブクミ、スプリング類、Oリング類、吐出ホースなどは消耗部品ですので、保証期間内でも有償修理となります。

整備

1. ラベル

- ラベルははっきり見えるように、常にきれいに保ってください。
- ラベルが汚れて見えなくなった場合や、紛失した場合には、購入店へ注文し貼り替えてください。またラベルが貼られている部品を交換する場合、ラベルも新しいものに交換してください。



はじめに

準備

使用方法

保守・点検

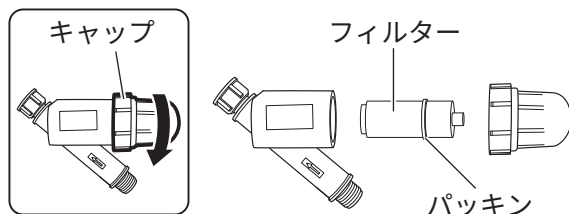
その他



2. ディスクフィルター（別売）の点検

■ ディスクフィルターの清掃

- 1) ディスクフィルターのキャップを矢印の方向に回して、内側からフィルターを取り出す



- 2) フィルターからパッキンを取り外す

- 3) 2) のフィルターとパッキンをバケツに入れた水道水の中に沈め、内部をきれいに洗う

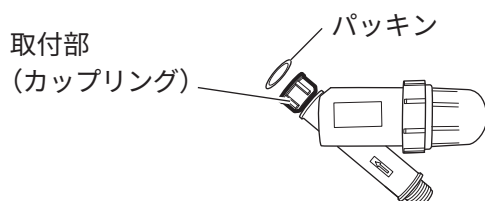
メッシュが細かいため、目で見ただけでは汚れが見えないことがあります。

- 4) パッキンを忘れないように取り付け、元通り組み立てる

■ ディスクフィルター取付部の確認

- 1) ディスクフィルターの取付部（カップリング）の締め付けを確認する

パッキンが入っているか、破損していないか確認する



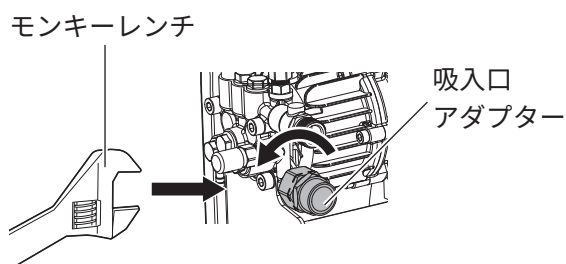
3. 吸入ホース取付部の点検

■ 吸入口フィルターの清掃

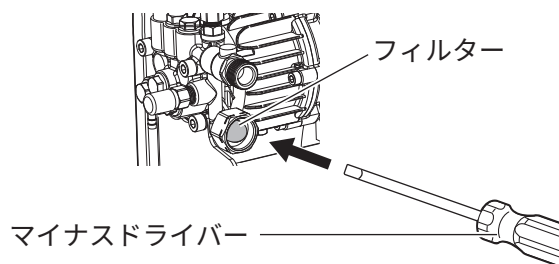
用意するもの

- モンキーレンチなど
- マイナスドライバーなど

- 1) 吸入口アダプターをモンキーレンチなどで取り外す



- 2) マイナスドライバーなどでフィルターを取り外す



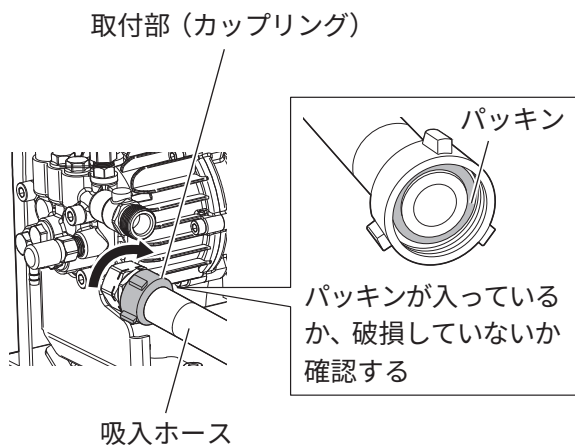
- 3) フィルターを清掃する

- 4) 吸入口アダプターを強く締め付ける

- 5) 吸水して確認、水が漏れたらもう少し締め付ける

■ 吸入ホース取付部の確認

1) 吸入ホースの取付部（カップリング）の締め付けを確認する

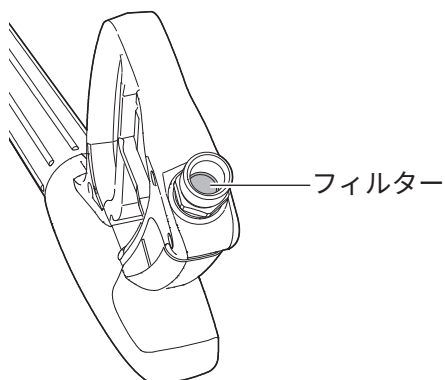


4. ガンのフィルター清掃

用意するもの

- 針金など

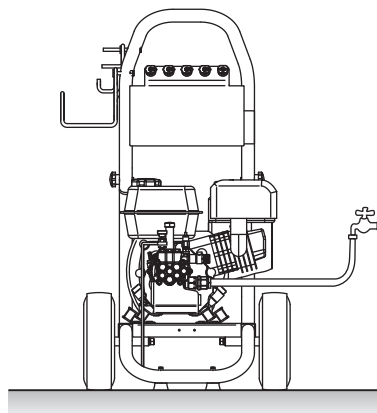
1) 異物があったら針金などで取り出す



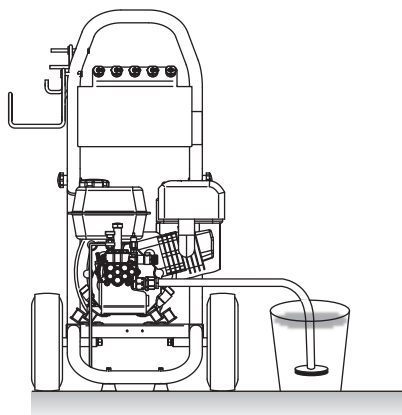
5. 吸入弁の乾燥を直す

ポンプの吸入弁が乾燥し、自吸不足になることがあります。その場合は次をお試しください。

1) 水道直結で吸水する

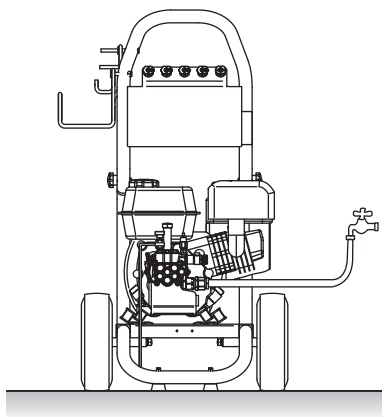


2) ポンプにできるだけ近い場所にため水をして吸水する



6. 吸入弁の固着を直す

まれにポンプの吸入弁の固着が起きる場合があります。本機に水道を直結して吸水すると固着の解消ができます。



7. ノズル

1) 付属品のノズルクリーナピンで定期的にノズル穴の清掃を行う

ノズル穴が詰まっていると水の出が悪くなり、十分な性能を発揮できません。



ここがポイント！

- ノズルが詰まっているかどうかは、必ずノズルランスからノズルを取り外した状態でノズル穴をのぞき込み、穴が通じているかを確認してください。

8. エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守ってください。
- 給油されたエンジンオイルは自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ってください。
- 次のようなエンジンオイルは使用しないでください。
長期保管により変質したもの／水分、サビ、ゴミなどの異物が混ざったもの

推奨オイル：4サイクルエンジンオイル
SE級以上
SAE10W-30

1) エンジンを停止する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)

2) 排出するエンジンオイルを受ける容器を用意する

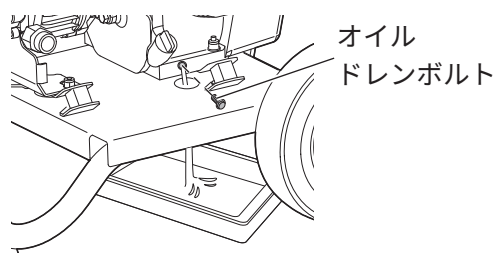
3) オイルドレンボルトを外す

用意するもの

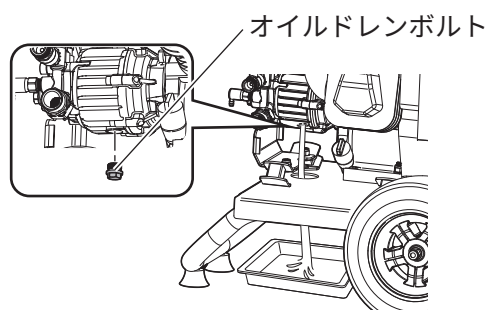
- スパナ (10 mm)

エンジンオイルを排出します。

■ エンジン側



■ ポンプ側



- 古いエンジンオイルの排出が終わったら、オイルドレンボルトを取り付ける



ここがポイント！

- ・廃液は、自治体の指示に従って廃棄してください。

- 新しいエンジンオイルの給油

(14ページ「2. エンジンオイル」参照)

9. 燃料タンクのストレーナーの清掃

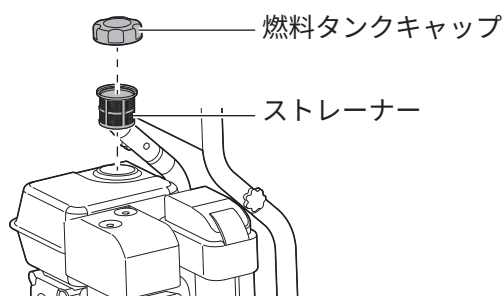
用意するもの

- ・針金など
- ・きれいな灯油

- エンジンを停止する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)

- 燃料タンクキャップとストレーナーを取り外す



- きれいな灯油でストレーナーを洗淨する

- ・ストレーナーが破損している場合は新品と交換してください。
- ・洗淨後はストレーナーをよく拭き取ってください。

- ストレーナーを燃料タンクの奥までしっかり挿入する

- 燃料タンクキャップを取り付ける

10. 点火プラグの清掃・点検・交換

用意するもの

- ・指定点火プラグ：F6TC 〈TORCH〉
F6TC 〈LG〉
(BP6ES 〈NGK〉、
N9YC 〈CHAMPION〉)
- ・プラグレンチ (付属品)



ここがポイント！

- ・指定以外の点火プラグを使用するとエンジン故障の原因になります。

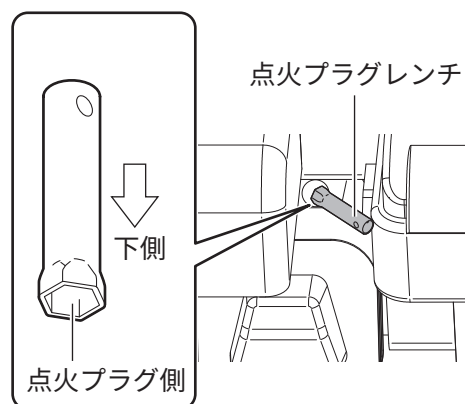
- エンジンを停止する

(15ページ「エンジンの始動／停止」参照)

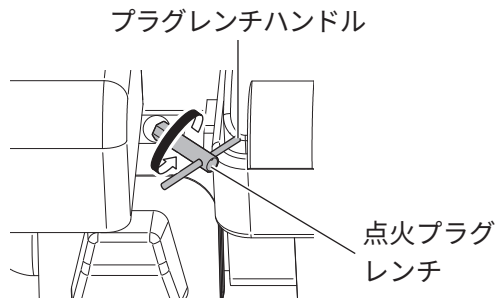
- 点火プラグキャップを外す



- 点火プラグレンチを点火プラグの六角形部分に合わせてさし込む



- 4) 点火プラグレンチ上部の穴にプラグレンチハンドルを通して、反時計回りに回して取り外す



ここがポイント！

- 点火プラグを外すとき、最初は強い力が必要です。ケガをしないように注意してください。

- 5) 点火プラグがぬれているときや汚れているときは、布切れなどで拭く

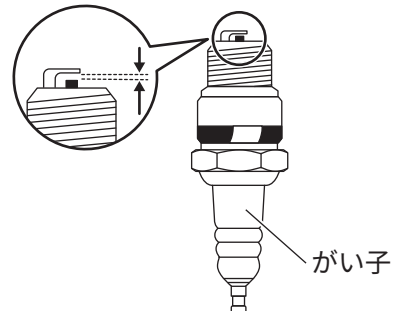
- 6) 電極付近が黒くまたは白く焼けている、ガソリンで湿っているときは、パーツクリーナーで清掃する（通常はキツネ色に焼けます）

点火プラグは、エンジンの始動方法などに問題があると次のようになります。

- 黒くくすぶっていたり、白く焼けたりしている
- エンジンオイルの入れすぎなどでカーボン付着がおこっている「くすぶり」
- エンジンが運転を開始した後も長く「始動」状態にした、エンジンスイッチが「停止」の状態でもリコイルを何度も引いたなど、ガソリンが多く供給されすぎた「かぶり」

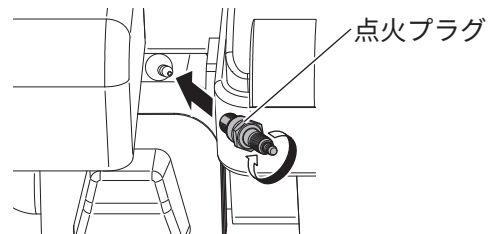
- 7) 電極のすき間（点火プラグギャップ）を確認して、次の寸法になっていない場合は調整する

点火プラグギャップ：0.7～0.8 mm



- 8) 点火プラグを取り付ける

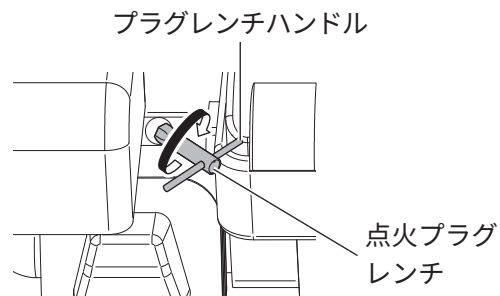
電極部分を下にして、手で元の場所に時計回りで取り付けてください。



- 9) 点火プラグレンチを取り付けて締める

- 10) プラグレンチハンドルを付けて増し締めする

1/4から1/2回転を目安に増し締めしてください。



11) 点火プラグキャップを取り付ける



ここがポイント！

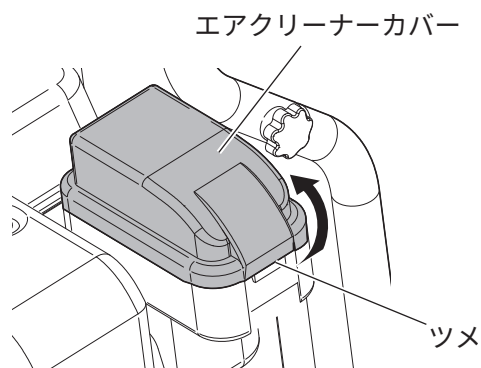
- 点火プラグキャップは根元を持ち、取付方向にまっすぐ確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。斜めに挿入すると点火プラグキャップが破損する場合があります。
- 点火プラグの清掃やすき間調整をしてもエンジンが始動しない場合は、新しいプラグに交換してください。

11. エアクリーナーの清掃

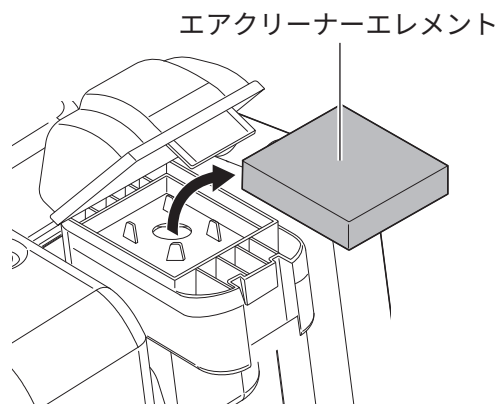
用意するもの

- きれいな灯油
- きれいなエンジンオイル

1) エアクリーナーカバーのツメを外して開ける



2) エアクリーナーエレメントを取り外す



3) エレメントを灯油で洗浄し、よく絞る

4) エンジンオイルに浸し、押しつぶすように絞る

オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。

5) 元通りケースに組み込む

仕様

1. 主な仕様

機種名		JCE-1710
製品名		高圧洗浄機
用途		農業機械の洗浄
ポンプ	最高圧力	17 MPa
	吸水量	10 L/min
	使用水	清水（5～40 °C）
	エンジンオイル 規定量	180 mL
製品寸法		幅 572×奥行 594×高さ 957 mm
製品重量		33.2 kg（付属品を含む）

2. エンジン諸元

エンジン種類	空冷4サイクルガソリンエンジン
モデル	工進 K210
総排気量	212 cm ³
最大出力	4.2 kW / 3600 rpm
使用燃料	レギュラーガソリン
燃料タンク容量	3.6 L
使用エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイル API分類 SE級以上 SAE10W-30
エンジンオイル規定量	600 mL
点火プラグ	F6TC <TORCH>、F6TC <LG> (BP6ES <NGK>、N9YC <CHAMPION >)
始動方式	リコイルスターター方式

パーツのご注文は

パーツは、必ず指定のものをご使用ください。

パーツは購入店または弊社製品お取扱店を通じてご注文いただけます。
また、弊社ウェブサイトにてパーツ表、価格をご覧いただけます。

1. ご注文時のお願い

部品番号（7～9桁）または機種名・JAN、名称、必要な個数を正しくお伝えください。

2. パーツ表・価格

- 1) <https://www.koshin-ltd.co.jp> へアクセス



- 2) トップページ「パーツリスト」をクリック



- 3) エンジンのパーツは「エンジンパーツリスト」をクリック



3. 主なパーツ

名称	機種名・JAN
JCE シリーズ専用 ディスクフィルター	機種名：PA-261 JAN：4971770-107656
吐出延長ホース10 m 〈ネジ式〉	機種名：PA-263 JAN：4971770-107519
吐出延長ホース20 m 〈ネジ式〉	機種名：PA-265 JAN：4971770-107526
跳ね返しガード	機種名：PA-366 JAN：4971770-200319
ブラシ付き回転洗浄 ノズル	機種名：PA-372 JAN：4971770-200371
パイプクリーニング ホース	機種名：PA-369 JAN：4971770-200340
角度切替式ワンタッチ カプラー	機種名：PA-367 JAN：4971770-200326
六段階切替洗浄ノズル 〈ワンタッチ式〉	機種名：PA-371 JAN：4971770-200364
JCE シリーズ専用 傾斜 ランス	機種名：PA-277 JAN：4971770-107748
ノズルランス (ノズル交換タイプ)	機種名：PA-269 JAN：4971770-107588

名称	機種名・JAN
ノズルランス (直射／扇状可変タイプ)	機種名：PA-268 JAN：4971770-107571
JCE-1107/1408専用 回転ノズル	機種名：PA-271 JAN：4971770-107670
ショートノズル (直射／扇状可変タイプ) 〈ネジ式〉	機種名：PA-278 JAN：4971770-107755
ランス用 グリップ	機種名：PA-384 JAN：4971770-200630
ロングランス	機種名：PA-365 JAN：4971770-200302
L 型ランス	機種名：PA-368 JAN：4971770-200333
JCE シリーズ専用ガン 〈ネジ式〉	機種名：PA-266 JAN：4971770-107557
吸入ホース 3 m (金具付き)	機種名：PA-272 JAN：4971770-107687
JCE シリーズ専用 ストレーナー	機種名：PA-273 JAN：4971770-107694

KOSHIN

保証書

レシート(販売証明書)と
共に保管してください

この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無償修理をお約束するものです。なお、本書によってお客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無償修理いたします。製品と本書、レシート(販売証明書)をご準備のうえ「工進修理受付窓口」へご相談ください。

機 種	高圧洗浄機 JCE-1710		※お買い上げ日		年 月 日
保 証 期 間	お買い上げ日より1年間(ただし、1年以内でも累計使用時間250時間を超えるものは除く)				
お 客 様	※お名前		※購入店	住所	
	※ご住所	〒		店名	
	電話	()		電話	()

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。

<保証契約約款>

- 保証期間内でも次の場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉不適切な使用、改造、取扱説明書に記載されている保守・点検以外の分解や修理、弊社指定の純正パーツ以外を使用したことによる故障または損傷、日常点検やお手入れ、整備を怠ったことにより生じた不具合。
 - 〈ロ〉お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害、指定外の使用(電圧、周波数、使用液、使用燃料など)や、使用環境要因による故障または損傷。
- 取扱説明書に記載の用途以外の目的に使用による故障または損傷。
- 本書の提示がない場合、また本書にお客様名、お買い上げ年月日・購入店名の記入またはレシート(販売証明書)の添付がない場合。
- 本書の字句を書き換えられた場合。また中古販売にて購入したもの。
- 同梱付属品、消耗品の交換。
- 車両、船舶などへの取り付けや外部要因による故障または損傷(船舶への取り付けは弊社指定船舶用製品を除く)。
- 保証期間内でも次のものは修理および補償いたしかねます。
 - 〈イ〉機能上影響のない感覚的現象(音、振動、操作感など)や使用損耗および部品寿命による不具合。
 - 〈ロ〉製品の不具合や使用によって生じた直接ならびに間接の損害。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- 出張修理は対応いたしかねます(弊社指定製品を除く)。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。海外での購入ならびに使用については一切責任を負いません。
This warranty is valid only in Japan, also not covered for overseas purchase and use.
- 弊社の判断により、修理に代えて同機種との交換、または同等性能を有する他機種への交換となる場合があります。

株式会社 **工進** 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

レシート(販売証明書)貼付位置

お問い合わせ

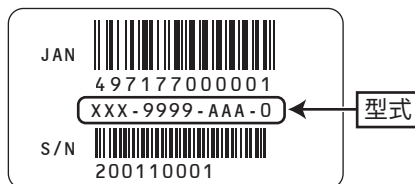
【個人情報のお取り扱いについて】お客様の個人情報保護方針は、弊社ウェブサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

お問い合わせの際は、

- 型式(下図参照)、
- お買い上げ年月日、
- 故障状況 など

をお知らせください。

※本体または梱包箱に貼付しています。
一部ラベルのない製品もございます。



■製品・パーツの販売についてのお問い合わせは

購入店またはお近くの弊社製品お取扱店にご相談ください。

■製品の修理に関するお問い合わせは.....工進修理受付窓口へ

保証期間経過後の修理などについてもご相談ください。

電話 **0120-987-386** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。

ダイレクト修理 ※北海道・沖縄を除く

- ①お電話またはメールで連絡
- ②修理品をお預け(宅配業者が取りに伺います)
- ③センターで修理
- ④ご自宅までお届け
- ⑤お支払いはクレジットカードまたは代引き

■製品に関するお問い合わせは.....お客様相談窓口へ

株式会社 **工進**



〒617-8511
京都府長岡京市神足上八ノ坪12

<https://www.koshin-ltd.co.jp>

Q&A
Eメール
Eメール

お客様
サポートページ▶

pump@koshin-ltd.co.jp

電話 **0120-075-540** 平日: 9:00~17:00
会社休業日・土日祝祭日を除く。受付時間に変更がある場合は、弊社ウェブサイトにてご案内します。